

『日本女性会議2002あおもり』に参加して

平成14年10月4日から5日にかけて、青森県青森市において『日本女性会議2002あおもり』が開催されました。私ども委員会からも3人が、研修・交流を目的に参加しました。今回は、参加者がそれぞれに感じた思いを報告させていただきます。

「日本女性会議2002あおもり」が青森市で開かれ、公式発表の参加者が3,038人、県外からの参加者は約1,900人(62%)ということでした。これに協賛団体、個人、ボランティア協力者、約200人の実行委員が加わり、大きなイベントとなりました。

全体会議の会場は2箇所に分かれ、分科会が10、ワークショップが3と専門分野の会議が用意されていました。私は、第1分科会「労働」に参加し、パネルディスカッション「男女格差をなくすワークショップ」に「多様な働き方を求めて」を聴講しました。発言者は、新聞・雑誌によく名前が出てくる著名な方々でした。男女共同参画社会を実現するためには、

「家庭」・「地域での活動」のバランスを確保でき、それぞれの価値観に基づいたライフスタイルを選択できる「働き方」が求められています。オランダ型ワークシェアリングに触れながら、わが国における新しい「働き方」を考えるという内容のものでした。2日目に行われた全体会議、「より豊かな生き方を求めて」にパネリストとして出席した佐々木誠造青森市長は、全国の自治体の中でただ一人、内閣府男女共同参画会議議員を勤めておられる方であるとのことでした。青森市は、平成8年に男女共同参画都市宣言をしています。しかし基本条例はまだ制定しておらず、条例の理念づくりは、すべて

市民グループにゆだねてあることで、とても印象的な発言でした。市民への浸透が何よりも大事であるとの考えをうかがい知ることができます。

1984年名古屋市中区で始まった「日本女性会議」は、今年10月滋賀県大津市で第20回目を迎えることになりました。日本は今、「男女共同参画」・「ジェンダー・フリー」に向かつて大きく動いていることを教えてくれた会議でした。
(委員 後藤敬)

10月4日青森空港に着くなり心の準備もなく、バスに乗り、いきなり会場である青森市文化会館に入りました。緊張感漂う会場は、女性の方々がいっぱいでした。するとある女性から、「殿方なのに女性会議にご出席なんですか?」と、問いかけられ、答える余裕もない自分でした。私が出席した分科会のテーマは、「労働 男女格差をなくすワークショップ」多様な働き方を求めて」でした。講師の方々のお話は、経済状況の厳しい日本において、現在取り上げられているワークシェアリングはパートタイム労働の拡大が懸念され、女性がますます周辺労働に追いやられる危険性をはらんでいるとのことでした。そのような中で、男女共同参画社会を実現するために、今までの企業中心の働き方を変え、老若男女がともに仕事・家庭・地域のバランスを確保し、それぞれの価値観に基づいたライフスタイルを選択できる働き方を求められている。またオラ

ンダ型ワークシェアリングを取り上げ、日本における新しい働き方を考えていこうとの内容でしたが、お話を耳に入れるのが一杯で、考える余裕もありませんでした。

10月5日には東京大学社会科学研究所教授大沢真理先生の講演があり、男女共同参画社会基本法について、現在、長引く不況の中で、ともすれば男女共同参画に逆行する動きも感じとれるが、男女共同参画で家計がリスク(危険)分散型になれば、不安から、安心へ、挑戦へと、ポイントを切り換えできるとは、ないかとのお話でした。

今回、両日出席させていただきましたが、推進委員でありながら、意識の未熟さに恥ずかしくなる思いでいっぱいでした。また10月4日の晩には、交流会が開かれ、初めて目にするねぶたの山車、いろいろな県の方々とたくさん語り、賑やかなねぶた音頭の流し踊りなど幻想的な雰囲気の中で交流会でした。「日本女性会議2002あおもり」は、自分自身、初めてなことばかりの貴重な二日間でした。
(委員 田中治夫)

私は、第2ワークショップである「学校教育」をテーマとした分科会に参加しました。

ここでは「学校教育のなかのジェンダーフリー」について、フォーラムシアターという参加型演劇の形で行われました。初めに演劇を見て、もう一度同じ劇を見ながら問題となる場面を指摘して変え

ていくというもので、出演者と参加者が一体となって舞台を進行させていきました。参加者がどんなふうに参加できるのか心配でしたが、いざ始めてみるとその熱気に圧倒されました。最後には「私が理想的な父親をやります」と舞台に上がる人もいて、その意識レベルの高さに驚かされました。

劇は中学生の女の子を軸に、「休み時間の教室」「職員室」「夕食時の家庭」の3つの場面が4人の役者さんによって演じられました。問題となった台詞の一例ですが、次の様なものがありました。

「男のくせに何で裁縫がうまいの。」「重い物を運ぶので、男子、手伝って。」「○○君のお母さん。」「女の子なんだからそんな乱暴な言葉遣いはやめなさい。」「女が工業高校へ行くなんてとんでもない。」・・・

皆さんは、どう思われますか。
(委員 木崎昌子)

※P2～P5の回答

Q1	3	Q8	1	Q15	4	Q22	1
Q2	4	Q9	2	Q16	3	Q23	1
Q3	2	Q10	3	Q17	3	Q24	3
Q4	4	Q11	2	Q18	4	Q25	4
Q5	3	Q12	2	Q19	2	Q26	4
Q6	4	Q13	1	Q20	2	Q27	2
Q7	1	Q14	4	Q21	3	Q28	2